

ふるさと住民システム 開発状況について (第2回全国説明会)

令和8年9月30日

総務省 ふるさと住民登録制度推進室

(※)本資料に記載の機能は正式版の内容です。10月中旬から提供予定の試用版とは提供範囲が異なります。

(※)掲載している画面イメージは基本設計時点のものであり、開発の過程で変更される場合があります。

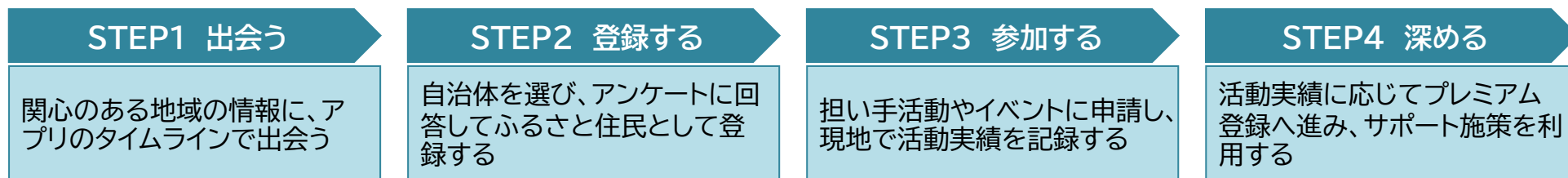
(※)資料中の自治体名、ロゴ、キャラクター等は、開発向けの例示であり、当該自治体の実際の取組みを示すものではありません。

ふるさと住民登録システムの概要

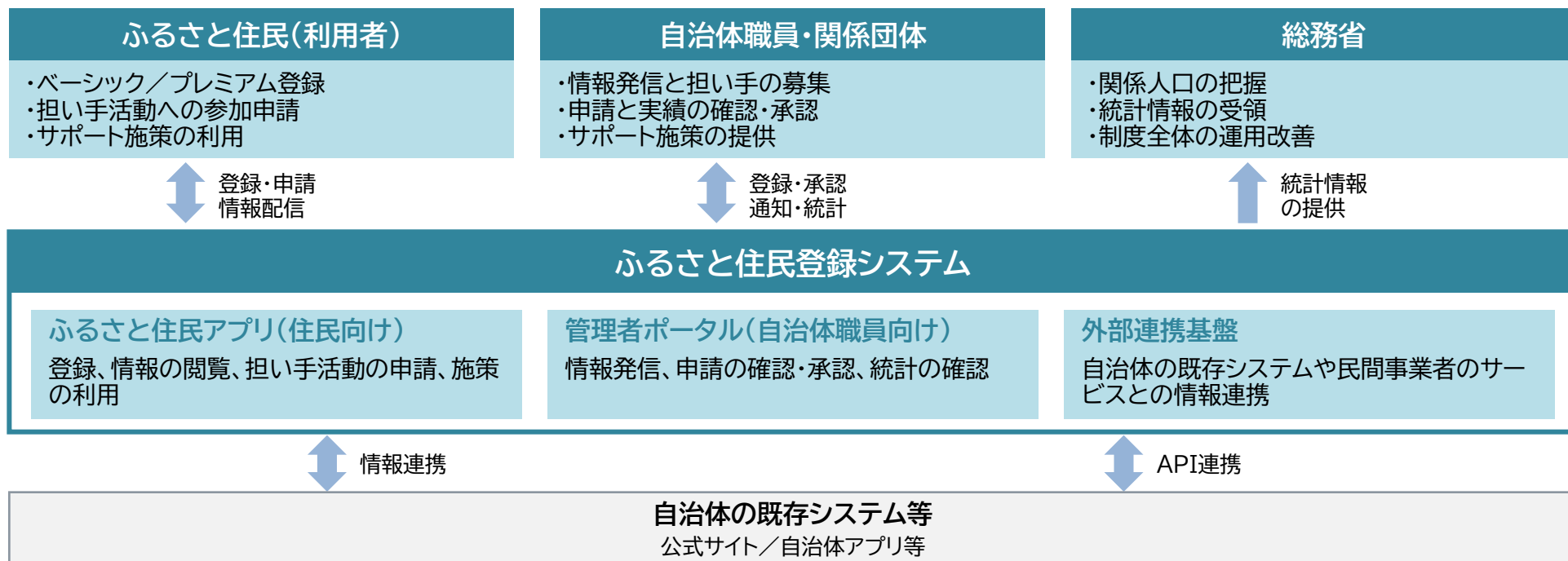
利用者・自治体・総務省・自治体の既存システム等を一つの基盤でつなぎ、登録から活動、施策利用までを支える。

利用者の流れ

○ 利用者は、地域との出会いから登録・参加・深化までの4段階で、地域との関係を深めていく。



システム構成と関係者



主要機能マップ

機能は「住民が使う機能」「自治体が使う機能」「オプション機能」の三つに整理される。

機能の三分類と掲載ページ

○ 主要機能は、利用する主体に応じて三つに整理する。各機能の説明ページを併記する。

住民が使う機能 (ふるさと住民アプリ)		自治体が使う機能 (管理者ポータル)		オプション機能	
P4	利用者向けマイページ	P9	管理者ポータル	P14	自治体の既存システム等との連携
P5	ベーシック登録・プレミアム登録	P10	自治体発信情報の掲載	P15	独自アンケート
P6	担い手活動の申請・実績記録	P11	担い手活動の管理	P16	関係団体管理
P7	サポート施策の利用・登録証	P12	サポート施策の管理	P17	コミュニティ／ゲーミフィケーション
P8	継続的な利用を支える機能	P13	統計情報の作成		

(※)各ページでは、機能について「主な機能」「画面イメージ」「自治体側のメリット」の順に説明する。

住民が使う機能：利用者向けマイページ

利用者が地域の情報に日常的に触れ、必要な機能へ迷わずたどり着ける入口。

主な機能

○利用者向けマイページは、利用者が自分に関する情報を確認し、必要な機能へたどり着くための入口であり、次の機能を備える。

(1) タイムライン表示	登録した自治体の観光・イベント・担い手募集の情報を、新しい順に表示する
(2) お知らせ	自治体やシステムからの連絡を一覧で確認する(未読・既読を管理)
(3) お気に入り	気になった情報を保存し、あとから一覧で見返すことができる
(4) 登録情報・通知設定	プロフィールや興味・関心、通知の設定を一元的に管理する

○ ホーム画面では、登録した自治体からの新着情報と、重要なお知らせを上部に表示する。



利用者用画面

自治体側のメリット

発信内容の改善

お知らせの既読状況やお気に入り登録記事などの登録者の反応が可視化され、発信内容の改善に活かせる

確実な連絡

お知らせの未読・既読をアプリ上で利用者に表示でき、重要な連絡が確実に届く

問い合わせの抑制

住民が迷わず目的の機能にたどり着けるため、問い合わせを抑えられる

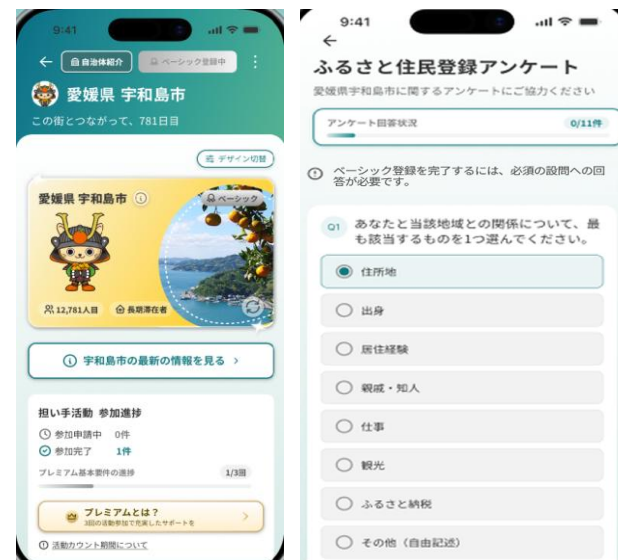
住民が使う機能：ベーシック登録・プレミアム登録

気軽に登録できる入口と、活動実績に応じて関係を深める段階の二つを用意。

主な機能

○ ふるさと住民登録は、「誰でも登録できるベーシック登録」と「活動実績に応じたプレミアム登録」の二段階で構成される。

(1) ベーシック登録	自治体を選び、アンケートに回答して登録する
(2) プレミアム登録	担い手活動に年3回以上参加及び、自治体が定める要件を満たした利用者が申請し、自治体が承認する
(3) 登録時アンケート	国が定める項目以外にも自治体独自のアンケートが取得できる
(4) 都道府県同時登録	市区町村にベーシック登録すると、都道府県にも同時登録できる
(5) プレミアム登録自動承認	独自要件がない場合は、担い手活動3回を自動判定して自動承認できる



ベーシック登録証画面／アンケート画面

自治体側のメリット

入口と深化の両立

誰でも登録できる入口と、深く関わる方を見分ける仕組みを両立できる

自動承認による事務負担軽減

プレミアム登録の要件として、年3回の担い手活動のみを設定した場合は、自動要件判定が行われ、事務負担を軽減できる。

登録証作成の省力化

登録証はテンプレートから作成でき、デザインの負担がかからない

住民が使う機能：担い手活動(探す・参加申請・実績記録)

地域の担い手を募集し、参加申請から現地での実績記録までを一気通貫で実施可能。

担い手活動の流れ

○ 担い手活動は、募集から実績の記録までを次の四つの段階で扱う。

① 活動を探す

アプリから活動を探す

② 参加を申請する

必要事項を入力して参加を申請する

③ 活動に参加する

担い手活動に参加する

④ 実績を記録する

現地で2次元コードを読み取り、参加実績を登録する

○ 2次元コードは活動ごとに出力・印刷。(※)読取範囲は、指定した座標から半径1キロ圏内。

○ 2次元コードを使えない場合は、利用者からの実績申請を職員が確認して登録することもできる。

主な機能

○ 利用者はアプリから活動を探し、申請から実績の記録までを行う。

(1) 検索機能	地域・活動期間・興味・関心での絞り込みと、キーワード検索
(2) おすすめ機能	興味・関心に応じた活動を、ホームやさがすトップにおすすめ表示
(3) 参加申請	応募フォームを入力して申請。マイナンバーカードで本人確認
(4) 実績登録	現地から2次元コードの読み取り、もしくは、書類を添付して申請
(5) 応募フォーム機能	自治体が活動ごとに質問を設定できる



住民が使う機能：サポート施策

担い手活動と地域での生活を支える施策を、三つの型で提供できます。

サポート施策の三つの型

A 登録証提示型

窓口などで登録証を提示して利用する。
事前の申請は不要

(例)公共施設を住民と同じ条件で利用する

対象とする登録区分と、利用できる期間を設定する

B 回数券型

回数券を提示して利用する。利用するたびに残数が更新される

(例)利用できる回数を決めて提供する施策

対象とする登録区分と、使用回数の上限を設定する

C 利用申請型

利用者が事前に申請し、自治体が承認したうえで利用する

(例)交通費・宿泊費の補助、ワーキングスペースの利用料の補助

申請内容は管理者ポータルで確認し、承認・却下する

○ 自治体は、型ごとの記載例を参照しながら登録でき、施策を準備する際の入力の手間を抑えられる。

主な機能

○ 利用者はアプリから施策を探し、提示または申請して利用する。

(1) サポート施策申請	申請型は本人確認のうえ申請し、自治体の承認を受けて利用する
(2) 書類提出機能	領収書などの書類を添付して申請
(3) ベーシック・プレミアム向け	登録区分ごとに対象を設定。限定施策は枠とタグで区別して表示



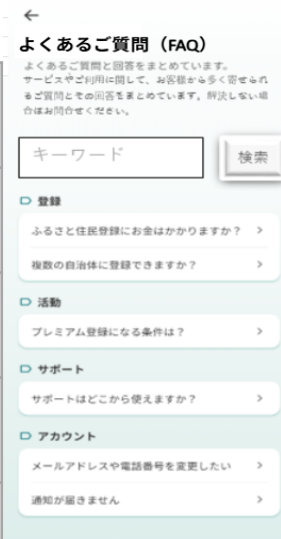
住民が使う機能：継続的な利用を支える機能

お知らせ・FAQ・活動の記録で、登録後も使い続けられるアプリにします。

主な機能

○ 登録後も継続して利用いただくため、次の機能を備える。

(1) お知らせ・通知	自治体からの新着情報や申請の結果を通知で届け、未読・既読を管理できる
(2) FAQ・問い合わせ	よくある質問をカテゴリ別に確認でき、解決しない場合はヘルプデスクに問い合わせできる
(3) 活動履歴の確認	参加した活動の履歴と申請の状況を確認できる
(4) バッジの表示	活動の参加回数等に応じたバッジを登録証に表示
(5) お気に入り	気になったニュース等を保存し、あとから見返せる



自治体側のメリット

問い合わせ対応の軽減

住民がFAQで自分で解決できるため、自治体への問い合わせが減る
解決しない場合はヘルプデスクが受けるため、自治体での一次対応が発生しない

確実な連絡

重要なお知らせを通知で届けられるため、郵送や電話での個別連絡が要らない

関係の継続

活動の記録とバッジが蓄積されるため、次の活動への参加を促せる

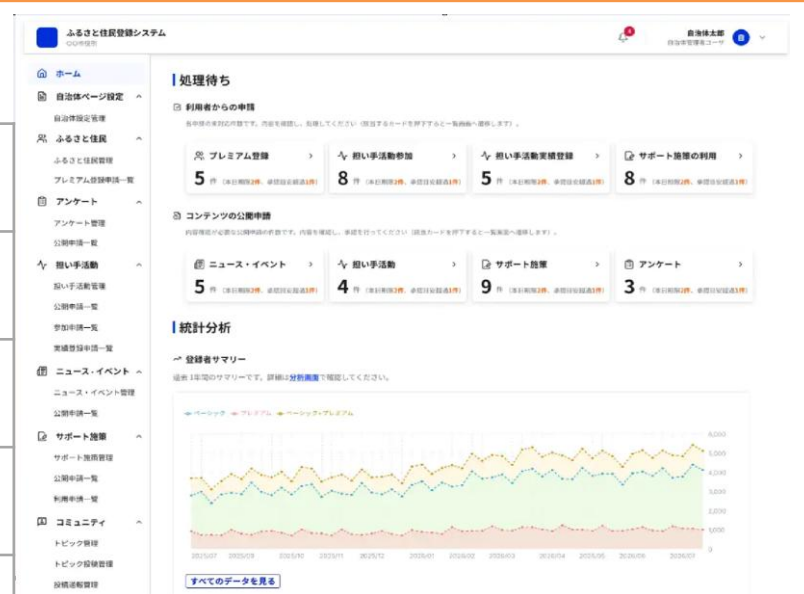
自治体が使う機能：管理者ポータル

自治体職員が確認・承認・情報発信・分析を一つの画面から行える業務の起点です。

主な機能

○ 管理者ポータルは、自治体職員が日々の業務を行う起点となる画面であり、次の機能を備える。

(1) 業務状況一覧表示	処理待ちの申請を件数と一覧で表示する(プレミアム登録の承認申請、担い手活動の実績確認、施策の利用申請 など)
(2) アカウント管理	職員と関係団体のアカウントを登録し、権限を設定する
(3) 各種情報の管理	自治体ページ、イベント・ニュース、担い手活動、施策を管理
(4) 統計分析	登録者数や活動状況をグラフで確認し、CSVで出力できる
(5) ご利用ガイド・FAQ	操作方法を画面上でいつでも確認できる



管理者ポータルホーム画面

自治体側のメリット

業務の見える化

対応が必要な業務を一画面で把握でき、確認漏れを防げる

一画面で完結

情報の登録から承認、統計の確認まで同じ画面で完結する

習熟負担の軽減

操作マニュアルとFAQを画面上で確認でき、習熟の負担を抑えられる

自治体が使う機能：自治体発信情報の掲載

基礎情報・イベント・担い手募集を管理者ポータルから登録し、アプリへ届けます。

情報発信の流れ

○情報の作成から公開、アプリへの掲載、統計把握まで一気通貫にシステム上で実施可能。

① 情報を作成する

自治体紹介ページ、イベント・ニュース、担い手募集を管理者ポータルで入力する

② アプリへ掲載する

登録された情報がアプリのタイムラインへ掲載される

③ リアクションの統計把握

閲覧数・お気に入り・リアクションの数を集計し、CSVでも出力できる

主な機能

○自治体発信情報は、管理者ポータルで作成し、アプリへ掲載する。

(1) コンテンツ作成	自治体紹介ページ、ニュース・イベント、担い手募集、サポート施策を入力する
(2) AI下書き	ファイルや外部サイトの情報から、掲載文の下書きを作成する
(3) コンテンツ管理	掲載期間(開始日時・終了日時)を設定できる
(4) 閲覧数・お気に入り	閲覧数・お気に入り数・リアクション数を統計分析で確認できる
(5) 関係団体申請管理	関係団体が作成した情報を確認し、承認してから公開する
(6) 通知	新しい情報の公開を、登録している利用者へ通知する



自治体が使う機能：担い手活動(参加者・実績管理)

募集条件を細かく設定でき、記録した活動実績はプレミアム登録の要件確認にそのまま使えます。

主な機能

○参加申請の受付から実績の確認までを、管理者ポータルで管理する。

(1)参加申請管理	申請を一覧で確認して承認・却下する。まとめた承認もできる
(2)参加実績管理	活動ごと・住民ごとに実績を確認できる
(3)実績取り込み	アプリでの申込がない参加者の実績も、CSVで一括登録できる
(4)2次元コード発行	活動ごとに発行し、参加者の読み取りだけで実績が記録される
(5)参加者一覧出力	申込者・参加者の一覧をCSVで出力できる
(6)申込フォーム作成	担い手活動募集に際して登録者から追加で集めたい情報を取得可能

自治体側のメリット

一連の流れで管理できる

募集から承認、実績の記録までを一つの流れで管理できる

表計算ソフトや紙での参加者名簿の管理が不要になる

現地での記録を省力化できる

2次元コードの読み取りで実績が記録されるため、現地での記録と集計の手間を省ける

2次元コードを使えない場合も、事後の申請で記録できる

実績をそのまま活用できる

記録した活動実績は、プレミアム登録の要件確認にそのまま使える

継続的に関わる住民を把握でき、次の募集の検討に活かせる

自治体が使う機能：サポート施策の管理

対象と期間を自治体で設定でき、利用の状況は管理者ポータルで確認できます。

主な機能

○ サポート施策の登録から利用申請の承認までを、管理者ポータルで行う

(1) 施策の登録	三つの型から選び、記載例を見ながら登録できる
(2) 対象の設定	対象の登録区分と、掲載・利用できる期間を設定する
(3) 利用申請の承認	提出書類を確認して承認・却下する。まとめでの承認もできる
(4) 公開前の承認	関係団体が登録した施策は、承認してから公開される
(5) 利用状況の確認	施策ごとの利用件数や住民ごとの履歴を確認できる

ふるさと住民登録システム

自治体本部

ホーム

自治体ページ設定

ふるさと住民

アンケート

担い手活動

ニュース・イベント

サポート施策

公開申請一覧

利用申請一覧

コミュニティ

お知らせ

統計分析

アカウント管理

ご利用ガイド

サポート施策一覧

ふるさと住民が利用できるサポート施策の管理を行います

キーワード検索

キーワードを入力してください

検索条件を選択する

利用タイプ

カテゴリ

対象

掲載状況

選択してください

選択してください

選択してください

選択してください

掲載期間

2026 年 4 月 1 日

から

2026 年 4 月 1 日

検索する

CSV出力

絞り込みをクリア

全22件中1～10件表示

サポート施策名	自治体名	利用タイプ	カテゴリ	対象	掲載状況	掲載開始日	掲載終了日	利用/申請数	
市営バス無料乗車券	さいたま市	申請型	交通	プレミアムのみ	掲載済	2026/04/22	2026/04/22	45件	...
県立施設利用補助	さいたま市	申請型	福祉	プレミアムのみ	掲載済	2026/04/18	2026/04/18	23件	...
レンタルサイクル無料利用	さいたま市	表示型	交通	ふるさと住民全員	掲載済	2026/04/15	2026/04/15	12件	...
児童館入館券	さいたま市	表示型	福祉	プレミアムのみ	掲載中	2026/04/12	2026/04/12	0件	...
イベント参加費補助(主催型)	さいたま市	申請型	福祉	プレミアムのみ	掲載中	2026/04/10	2026/04/10	0件	...
タタシシ利用補助	さいたま市	申請型	交通	プレミアムのみ	掲載中	2026/04/08	2026/04/08	0件	...
県立施設利用補助	さいたま市	表示型	福祉	ふるさと住民全員	掲載中	2026/04/05	2026/04/05	0件	...
市営バス無料乗車券	さいたま市	申請型	交通	プレミアムのみ	掲載中	2026/04/04	2026/04/22	43件	...
県立施設利用補助	さいたま市	申請型	福祉	プレミアムのみ	掲載中	2026/04/03	2026/04/16	23件	...
レンタルサイクル無料利用	さいたま市	表示型	交通	ふるさと住民全員	掲載済	2026/04/02	2026/04/15	12件	...

前のページ 1 / 3 次のページ

自治体側のメリット

準備の負担が小さい

記入項目と記載例が用意されているため、文面を考える手間が省ける
公開前にアプリでの見え方を確認できるため、公開後の手戻りを防げる

承認の手間を抑えられる

承認待ちの件数がホーム画面に表示されるため、対応漏れが起きない一覧からまとめて承認できるため、申請が集中しても処理が溜まらない

効果を確認できる

施策ごとの利用件数が一覧に表示されるため、施策間で使われ方を比較できる一覧をCSVで出力できるため、庁内の報告にそのまま使える

自治体が使う機能：統計情報の作成

登録者数や活動状況を集計・可視化し、関係人口施策の検討と改善に活かします。

主な機能

○ 管理者ポータルでの統計分析ダッシュボードで、次の情報を可視化する。

(1) 関係人口の状況	登録者数をベーシック・プレミアム別に把握でき前月比や推移も分かる
(2) 住民の属性	年代や性別・居住地の構成が分かり、どんな層が登録しているかを把握できる
(3) 担い手活動の状況	参加人数と累計、平均の参加頻度、参加頻度の分布を確認できる
(4) 情報発信の状況	ニュース・イベントの閲覧数や反応、よく読まれた記事の順位が分かる
(5) CSV出力	期間を指定して、集計結果をCSV形式で出力できる



自治体側のメリット

集計作業が不要

登録者数や活動実績が自動で集計されるため、表計算ソフトでの集計作業が発生しない
期間を指定してCSV出力できるため、庁内の報告資料にそのまま使える

施策の検討に活用

年代や居住地の構成、参加頻度の分布が分かるため、届いていない層に合わせて施策を組める
前月比や推移が表示されるため、施策の前後で効果を確認できる

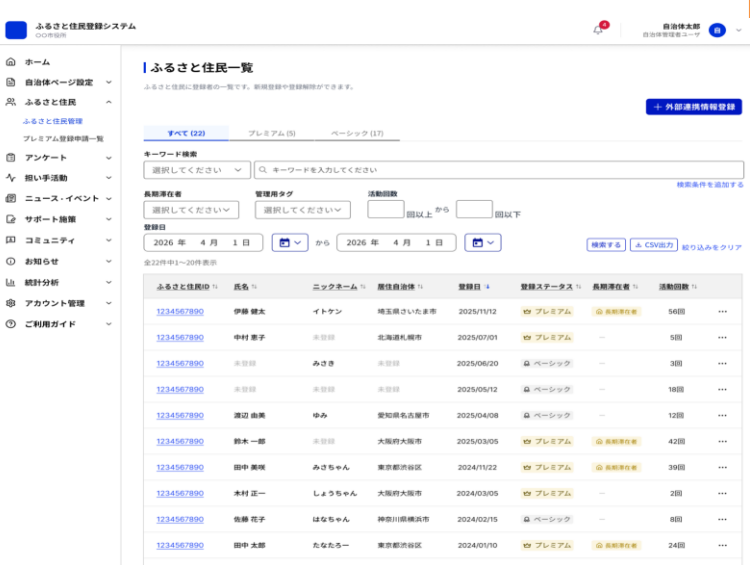
オプション機能：自治体の既存システム等との連携

標準的な認証連携とCSV連携の二つの方式に整理し、改修の負担を抑えて接続できます。

主な機能

○外部連携は、OIDC／OAuth2による認証連携とCSVによるファイル連携の二方式で行う。

(1)認証連携 (OIDC／OAuth2)	広く普及した標準の認証・認可方式を採用。接続側が標準に沿って実装することにより本システムと接続可能
(2)簡易連携 (CSV)	ファイルの受け渡しで連携する方式。参加者・実績の取り込みと掲載情報の出力ができ、システムの改修は不要



自治体側のメリット

改修の負担を抑えられる

CSV連携は画面からのファイル受け渡しだけで完結するため、既存システムに手を入れずに始められる

既存の取組を活かせる

既存システムで管理している参加者や活動実績を取り込むため、これまでの取組を引き継げる

オプション機能：独自アンケート

自治体が任意のタイミングでアンケートを作成し、利用者へ配信できます。

主な機能

○ 登録時のアンケートとは別に、自治体が独自のアンケートを配信できる。

(1) アンケートの作成	質問と選択肢を自由に設定できる(最大20問)
(2) 公開	自団体のふるさと住民に向けて、必要なときに何度でも実施できる
(3) 回答の確認	回答を一覧・詳細やふるさと住民ごとに確認し、CSVで出力できる
(4) 公開申請の承認	関係団体が作成したアンケートは、承認してから公開する

自治体側のメリット

費用をかけずに実施できる

作成から回答の収集までポータル内で完結するため、別のアンケートサービスを契約せずに済む

関心のある層に直接聞ける

回答者は自団体に登録した住民に限られるため、関係人口の生の関心や要望が分かる

結果をそのまま使える

回答をCSVで出力できるため、庁内の報告や次の施策検討にそのまま使える
住民ごとの回答も確認できるため、個別のフォローにつなげられる

自治体が指定した関係団体に、情報発信と担い手活動企画等の事務の一部を任せられます。

主な機能

○ 自治体は、地域の関係団体等にアカウントを払い出すことができる。

(1) 関係団体の登録	管理者権限の職員が、関係団体の情報とアカウントを登録・変更・削除する
(2) 任せられる範囲	担い手活動、ニュース・イベント、サポート施策、アンケートコミュニティの登録(ただし、公開には自治体の承認が必要)
(3) 公開前の承認	関係団体が登録した情報は、自治体が承認してから公開される
(4) 権限の制限	ふるさと住民の一覧など、個人情報扱う機能は利用できない

○ 関係団体は、インターネット経由で管理者ポータルを利用する。



自治体側のメリット

募集の担い手が広がる

地域の団体に担い手活動募集記事の作成等の事務の一部を委託できるため、自治体だけでは拾えない活動も掲載できる

職員の負担を分担できる

情報の作成を関係団体に任せられるため、職員は内容の確認だけに集中できる

品質を確保できる

公開前に自治体の承認を挟むため、誤った情報がそのまま公開されない
ふるさと住民の個人情報は参照できないため、情報の取り扱いを心配せずに任せられる

オプション機能：コミュニティ／ゲーミフィケーション

住民同士の交流と、楽しみながら続く仕組みで、登録後の関係を継続的なものとします。

主な機能

○ 登録後の関係を継続的なものとするため、次の仕組みを提供する。

(1) コミュニティ	自治体や関係団体が設定したトピックで、登録した住民同士が投稿やコメントで交流できる
(2) 通報と管理	不適切な投稿は通報でき、管理者ポータルで削除や投稿の停止ができる
(3) ミッション	連続ログインや担い手活動への参加を達成するとガチャチケットが得られる
(4) 報酬・トロフィー	ガチャチケットでご当地ポストカードを抽選できる。また、本アプリ全体を通した実績に付与されるトロフィーや自治体ごとのコミットメントに付与されるバッジ等が獲得できる



自治体側のメリット

登録後の関係継続

トピックでの投稿や交流が生まれるため、登録後も地域と接点を持ち続けてもらえる

運用作業が不要

ミッションや抽選の仕組みはシステム側で動くため、自治体の運用作業が発生しない

統制がとれる

通報された投稿を削除でき、繰り返す利用者は投稿を停止できるため、安心して運用できる